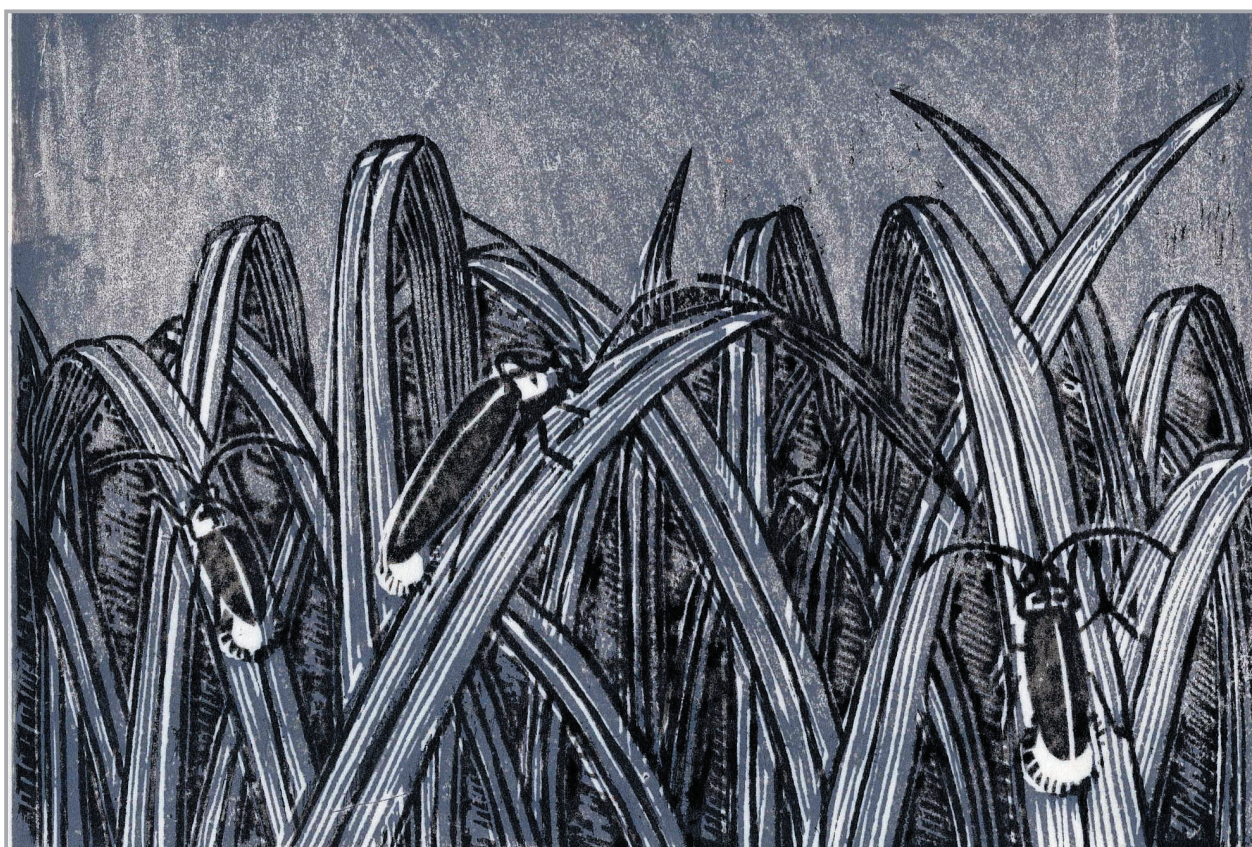


いたちかわらばん

通刊29号

鮎川・狹川 / 川原番・瓦版

05 春号

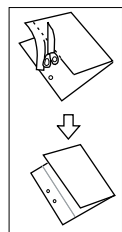


(版画 宗森英夫)

【ホタル】

切り取り線

この部分を切り取ってファイルにすると便利です



「ホタルを見分けるには」ゲンジボタルは体が大きくて光が強く、胸部の赤い部分に十字形の黒い紋が入っています。ヘイケボタルは、やや小さく光も弱く、胸部の赤い部分に黒の太い縦線が入っています。

「ホタルを見分けるには」ゲンジボタルは体が大きくて光が強く、胸部の赤い部分に十字形の黒い紋が入っています。ヘイケボタルは、やや小さく光も弱く、胸部の赤い部分に黒の太い縦線が入っています。

(よしのぼり)

「ホタルを見分けるには」ゲンジボタルは体が大きくて光が強く、胸部の赤い部分に十字形の黒い紋が入っています。ヘイケボタルは、やや小さく光も弱く、胸部の赤い部分に黒の太い縦線が入っています。

「ホタルを見分けるには」ゲンジボタルは体が大きくて光が強く、胸部の赤い部分に十字形の黒い紋が入っています。ヘイケボタルは、やや小さく光も弱く、胸部の赤い部分に黒の太い縦線が入っています。

「ホタルを見分けるには」ゲンジボタルは体が大きくて光が強く、胸部の赤い部分に十字形の黒い紋が入っています。ヘイケボタルは、やや小さく光も弱く、胸部の赤い部分に黒の太い縦線が入っています。

「ホタルを見分けるには」ゲンジボタルは体が大きくて光が強く、胸部の赤い部分に十字形の黒い紋が入っています。ヘイケボタルは、やや小さく光も弱く、胸部の赤い部分に黒の太い縦線が入っています。

いたち川流域のホタル

一九七〇年代は、いたち川流域の谷戸の奥でしか、ホタルは見られませんでした。しかし、年々、下流に向かって分布範囲を広げ、昨年は、瀬上沢(いたち川右支流)では、とうとう、中野町まで到達しました。分布範囲を広げただけでなく、発生頭数もかなりの数が見られるようになりました。昨年、瀬上沢流域全体では、累計で四千頭を超えるゲンジボタルが確認されました(成虫が発生し始めた五月下旬から七月上旬まで)。ピークの頃は一晩で三百頭を超すホタルが見られました。

六月から七月初旬のシーズン中は、区内外から多くの市民がホタルの鑑賞に訪れます。多い日には、一晩で千人を超える人が押しかけ、ホタルより人の方が多いことも度々です。そこで、路上駐車、騒音、ホタルの持ち帰りなど近隣への迷惑や環境への負荷などの問題が生じています。

いたち川には、ゲンジボタルとヘイケボタルがおります。ゲンジボタルの幼虫は、小川のような流れのある所を好みますが、ヘイケボタルの幼虫は、池や湿地など流れのない所を好みます。昔は田圃が多かったため、ヘイケボタルの方が多かったのですが、今では激減して、ゲンジボタルの方が多くなっています。

ヘイケボタルの方が、発生時期が遅く、六月下旬から八月上旬まで見られます。したがって、六月下旬から七月上旬の頃は、ゲンジボタルとヘイケボタルを同時に見ることが出来ます。

第2回キャリアコミュニケータープログラム2004 in 横浜 開催される

今年も“社会と教育の融合”をテーマとして、2月26日(土)に神奈川県立地球市民かながわプラザで開催され、会場は立ち見ができるほど盛況でした。市外から訪れる人も多く、伊勢原市、茅ヶ崎市、平塚市から、県外からは静岡県、東京都などから参加がありました。

私たちを取り囲む環境について、いたち川と周辺地域の環境の変遷、OTASUKE 隊活動報告、小学生による総合学習や課外活動などの発表が行われ大きな拍手を受けていました。

なかでも、本郷中学校生徒の“リン酸イオン大追跡、ウチで調べる水質汚濁”は、人間の体の不思議さに改めて驚きを覚えるものでしたし、笠間小学校3年生の自然の仕組みや命の大切さなどをテーマにした“いのち”“心から心へ”の発表には、その真剣さに感銘を受けました。



また、桜井小学校児童は“栄区のホタル”の研究発表に当たって、病気で欠けた友人の分もカバーして、少人数で見事な発表をしてくれました。

いたち川散策マップ 第2版ができました

平成14年3月発行の「いたち川散策マップ」は、私たち、いたち川OTASUKE隊が現地調査で得た情報を基にして作成された、いたち川散策に便利なマップです。

4つの散策モデルコースや、いたち川流域で見られる生き物などを紹介したこのマップは大変好評で、発行から約3年で約2万部が配布されました。このたび、第2版が発行されました。この第2版では、いたち川で進められている河川改修や水辺広場の整備状況などが反映された他、距離標や彫刻の場所を加えるなどの修正がなされました。

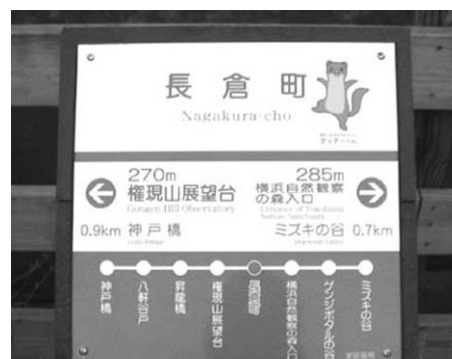
マップは、栄区役所1階総合案内、4階区政推進課及び「横浜自然観察の森・自然観察センター」において無償で配布しています。散策のお供に、ご活用ください。



いたち川の距離標が増えました

平成15年3月に、いたち川橋から尾月橋の間の9ポイント計16箇所に設置され、いたち川散策時の目安になると好評を得ているいたち川の距離標が、このたび上流部にも設置されました。今回、設置されたのは、神戸橋からいたち川小川アメニティ、長倉町小川アメニティを通過して横浜自然観察の森に至るまでの約1.7km、8ポイント。今回も、いたち川マスコット タッチーくんのかわいいイラスト入りです。

いたち川散策マップ 第2版のCコースに設置位置が記されていますので、マップを片手に春のアメニティを歩いてみませんか？



発行年月
2005年4月

通刊29号

発行：狹川OTASUKE隊 (いたちがわおたすけたい)

OTASUKE隊事務局：栄区役所区政推進課企画調整係
〒247-0005 横浜市栄区桂町303-19
TEL 045-894-8161 FAX 045-895-2260
栄土木事務所下水道・公園係
〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷1-6-1
TEL 045-895-1411 FAX 045-895-1421
(お便り・お問い合わせは こちらまで)

1. 「いたち川情報マップ」作成時代

(1995年10月～1996年3月)

- ・ 栄区役所は、「いたち川情報マップ」を作成するため、いたち川に関心のある人を広報よこはま栄区版で募集した。公募で集まった13名の区民と、栄区政推進課と栄土木事務所により「いたち川 OTASUKE 隊」が結成された。
- ・ 隊員を社会系7名(橋の名の由来や流域の歴史などを調査)と、自然系6名(いたち川の水源調査、いたち川に住む魚や飛来する水鳥、河川敷に生える植物などを調査)の2班に分けて、柏尾川との合流点から源流までを歩いて現地調査を行

い、その結果をマップに反映させた。いたち川に関するさまざまな情報が区民の参加で身近なマップとして発行されたのは画期的なことで、初版1万部は好評を得て、その後に発行された「いたち川散策マップ」の先駆けとなった。

- ・ 1996年8月「いたち川情報マップ」の初版発行。
- ・ 「金沢地図博覧会」や「人まち横丁展」に参加出品。



2. 「いたちが◎ワッ!ミュージアム」時代(1997年3月)

・ いたち川情報マップに対する反響を受け、いたち川に関心を持つ人々が交流できるイベントを計画し、流域の荒井沢で畑作業を楽しむ緑栄塾と共に実行委員会を結成。自然、文化、教育、生活、まちづくりなどのボランティア団体に参加を呼びかけ、栄区役所新館の1階に1日限りのいたち川流域を出展させた。床に敷いたブルーのビニールシートをいたち川に見たて、その両側に活動紹介パネルや模型を展示。玄関ホールでは10個の水槽を設置し、それぞれにいたち川に住んでいる10種類の魚を紹介するため、1種類ずつ入れミニ水族館をつくった。多自然型工法のミニチュアも展示。荒井沢産の蕎麦団子



や湧水で沸かしたコーヒーのもてなしで、「川べりおしゃべりコーナー」も盛り上がり、いたち川の過去・現在・未来が語られた。

- ・ パネルディスカッション「我が地帯・いたち川(わがちたい・いたちがわ)」には17団体が参加し、交流を深めた。
- ・ JR本郷台駅前駐輪場の展示スポットで開かれた「いたち川ギャラリー」では、「いたち川点描」と題した林茂夫氏の水鳥の写真20枚や「いたち川百景」と題した宗森英夫氏のスケッチ100枚(いたち川の柏尾川との合流点から源流までの風景)などが展示された。



3. 「いたちかわらばん」時代(1997年4月～現在)

・ 散策道、水辺の広場などの親水施設整備が進むなかで、いたち川は、区民のシンボルとしてますます親しまれるようになった。四季折々変化する姿をみせるいたち川の情報を、区民の立場で広報しようとの発想で「いたちかわらばん」はつくられた。「いたち川情報マップ」に載せきれなかったもの、「いたちが◎ワッ!ミュージアム」で紹介しきれなかったものもあり、これらをシーズン毎に紹介する必要もあった。そこで季刊紙として「いたちかわらばん」を発行することにな

り、1998年4月に創刊号がだされて以来、現在まで28号を出し、8年目に入った。

- ・ いたち川に関する情報を多角的にとらえ、多面的に紹介してきた。各号は4頁で紙面も少ないが、バックナンバーを揃えてみると、さしづめ「いたち川百科事典」といった趣をもつほどさまざまな情報が盛り込まれている。しかし、いたち川に関してすべてを語りつくしたという状況ではなく、未発表のテーマも残されている。
- ・ 現在までに紙面で紹介してきた主な内容は、次のとおり。橋の名前とその由来、流域に伝わる歴史、「暴れ川」といわれた時代の洪水の記録、流域に伝わる民話や伝説(一部)、源流域の湧水地調査の結果、いたち川に飛来する水鳥(一部)、いたち川に住む魚類・甲殻類(一部、特にブラックバス等の外来魚については未紹介)、河川敷に生えている植物や水棲昆虫(ごく一部しか紹介していない)、地域住民といたち川との関わり方、水辺愛護会の活動、流域小学校の総合学習の活動報告、などなど。

[これから取り上げたいテーマに関する課題]

- ・ 本川を中心に扱っていたことから、支流の猿田川(右支川)や洗井沢川(左支川)については、あまり紹介されていない。
- ・ 中流域で河川整備が進み、数年前とは、かなり様相が違ってきている所も少なくない。
- ・ 地球温暖化等で環境保全についての関心が高まってきている。
- ・ まちづくりとの関わり方の観点からも見直す課題が少なくない。

4. OTASUKE 隊の今後の取り組みについて

- ・ 昨年秋に区広報で新隊員の募集をおこない、メンバーが増えたのを機会に「いたちかわらばん」編集班とイベント企画班の2班体制をとり、年に1、2回イベントを実施することになった。
- ・ 第1回目のイベントとして、去る2月26日(土)に、あーすぶらざで「キャリアコミュニケーションプログラム2004 in 横浜」のなかで活動報告を行うとともに後援を行った(4面に掲載した報告を参照)。

